

新風

平成27年3月25日
多治見市立陶都中学校
No. 12

平成27年度の胎動を確かに感じて…

多治見市立陶都中学校 校長 松山 央

3月6日の卒業式では、203名の卒業生が、たくさんの思い出を胸にそれぞれの道に向かって巣立っていきました。お陰様で、多くの来賓や保護者の皆様の祝福を受け、感動的な式となりました。改めて感謝申し上げます。3年生が抜けた後の校内では、その足跡を受け継ぐべく、世代交代の手続きが着実に進んでいきました。今回はその活動の一端を紹介し、今年度の学校報の締めくくりとさせていただきます。

3月10日の朝、校内放送で選挙管理委員長より生徒会役員選挙の結果が報告され、平成27年度前期8名のリーダー（生徒会執行部員）が決定しました。次代を担う在校生による、新たな出発です。

選出された生徒会執行部員の初仕事は、委員長面接です。本校には議長会を含め9つの委員会があり、9名の委員長はこの執行部員の面接を経て選出されます。今回はそれぞれのポストに総勢16名の立候補者が出て、朝や放課後の限られた時間帯に、ポスト別に面接が行われました。前回に続き、私もその一部を覗かせてもらいました。面接は、小会議室にて実施され、生徒会担当教師及び該当委員会の担当教師も立ち会います。そこへ



立候補者が入室し、自身の公約書に沿って、考えを述べます。その後、その公約に対する質疑応答がなされ、そのやり取りの後、委員会担当教師からも質問・意見が出され、会は終了します。立候補者退出の後、執行部員が話し合い、信任及び選出を行っていきます。その場にいる教師も話し合う視点は提示しますが、あくまでも決定するのは執行委員のメンバーです。教師側から執行部員に対しては、「立候補者が緊張して入ってくるのは、当たり前だ。それを笑ったり、見下すような言動を示したりすることは、あり得ない。執行部員としての心構えを聞きたい。」委員長立候補者に対しては、「君たちは、その委員会の立候補者として、今、学年・学級で何をしている。学年の様子は決して完璧という状況ではない。委員長になったらではなく、今、何ができますか？」

執行部の子達も真剣にならざるを得ません。何せ、自分たちの責任で、信任・不信任、選出・不選出を決めなければなりません。公約の中身について一つ一つ細かく質問します。面接の後は、それぞれが感じたことをいろいろな角度から述べます。「こちらの質問に対して、目をそらさず堂々と答えている。考えがしっかりしている。」「委員会としての活動の具体性があると思う。」「〇〇さんは、委員一人一人への指導という点では確かな力があり、間違いのないだろう。一方、〇〇さんは、委員会全体を引っ張って行くような雰囲気づくりの力がある。」等々…。こうやって議論を尽くすのですが、1回の面接ではどうしても決めかねる場合も出てきて、その際は、2回目の面接が実施される場合もありました。

この委員長面接、実に時間と手間がかかります。しかしながら、選ばれる方も選ぶ方も随分大切な勉強をしていることが、面接現場に立ち会ってみてよくわかりました。選挙で選ばれた執行部員は、自分たちの手で共に陶都をリードしていく仲間を選んでいく。どうやって決定したのかをきちんと説明できることが、せっかく立候補してくれた仲間に対しての誠意であり、そのためにとことん議論を尽くす。その中から、自分の立場が、随分責任のあるものであることを身体に染み込ませていく。一方、選ばれる方も、いい加減な気持ちや考えでは決して許されないことを肌身に感じて学んでいく。こうした手続きを経て、全校をリードするリーダーとしての心構えがさらに本物になっていく。惜しくも選からもれた立候補者にとっても、この体験からより確かな視点を備え、諸活動を支えてくれる大きな力になってくれるはず。先輩の残してくれた思いと形が、ここにしっかりと受け継がれていることを実感し、頼もしく感じました。

こうして、来年度への胎動を感じつつ、平成26年度も無事終えようとしています。

保護者の皆様方並びに地域の皆様方、これまでのご支援ご協力、誠にありがとうございました。来年度もどうかよろしく願いいたします。

平成27年度 前期 生徒会執行部のみなさんです。

生徒会長	水野 泰一	執行委員	横山 もも
副会長	酒井 寛弥	執行委員	佐藤 優帆
副会長	吉田 温登	執行委員	小坂井季月
		執行委員	松永 壮平
		執行委員	木實 瑤華

平成27年度 前期 生徒会委員長のみなさんです。

整美委員長	遠藤 隆也	合唱委員長	加藤 玄
学習委員長	渡邊 未悠	生活委員長	森 壮生
図書委員長	加藤 遥夏	給食委員長	山形 貫太
保健委員長	稲垣 さやか	情報委員長	荒井美沙季
議長	亀山 美涼		

認め、励まし、次へ自信をもって進めるように

多治見市教育委員会

進学や進級の時期です。親子（家族）で、子どものこの一年の成長を共に喜び、子どもには、次の学校、学年に期待を持たせてあげたいですね。

まず、「できるようになったこと」をみつけ、認めましょう。まだできていないことは、「だめ」ではなく「こうなるといいね」、「こんなことがさらにできるようになるといいね」と今までの努力を認めながら、励ましましょう。そして、子ども自身が自分の良さを認め、次の目標に向かって、自信をもって進んでいくことができるよう見守ってあげましょう。

新たな学校、学年などへの変化に、不安な気持ちになる時期です。子どもの話をよく聞き、自分の経験を話しながら不安な気持ちに寄り添うことも大切です。

今までも増して、プラス思考で子どもをみつめ、話をする時間をもちましょう。